

# 美保関町 ジオパークガイドマップ

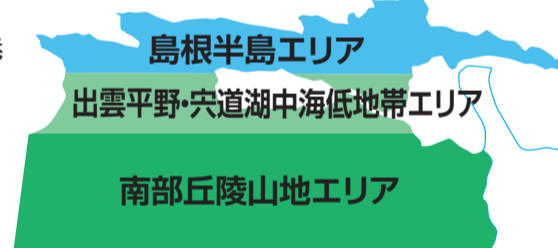


美保関町まちづくり協議会  
ジオパーク部会

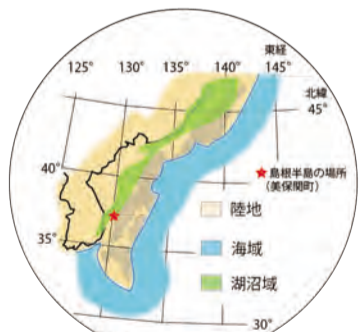
ジオは地球、大地のことで大地(ジオ)の上に広がる動植物や生態系(エコ)の中で私たち人(ヒト)は生活し、文化や産業などを築き、歴史を育んでいます。ジオパークとはジオ、エコ、ヒトのつながりを楽しく知ることが出来る公園です。

島根半島・宍道湖中海ジオパークは平成29年12月22日に日本ジオパークに認定され、この仲間入りをしました。

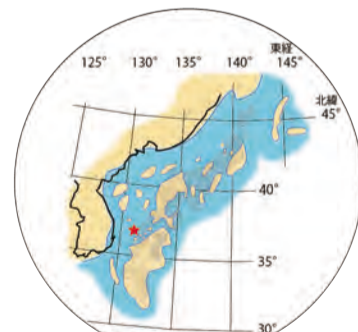
島根半島・宍道湖中海ジオパークは「出雲国風土記の自然と歴史に出会う大地」として、A島根半島エリア、B出雲平野、宍道湖中海低地帯エリア、C南部丘陵山地エリアの三つの地形、地質の異なるエリアがあります。美保関町はA-4美保関サブエリアとして西は北浦から手角あたりの宇波の折絶(うなみのたえ)から東は地蔵崎の三種の埼、それにA-3三坂山サブエリアの東部の一部がかかっています。その中に14ヶ所のジオサイトがあるほか、歴史、文化、観光の面でも魅力的な地域です。



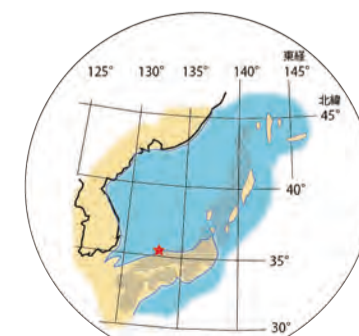
出雲国風土記では八東水臣津野命(やつかみずおみづぬのみこと)が高志の都都(つつ)の三埼を国引きされて三種の埼としたとされています。



およそ2,000万年前



およそ1,600~1,700万年前



およそ1,500万年前

島根半島は2000万年前くらいまではユーラシア大陸の東端にあり、大陸分裂から日本列島形成の時代の堆積岩や海底火山活動で形作られました。美保関の大部分は2500~1700万年前の河川、淡水湖、汽水湖の礫岩、砂岩、泥岩、安山岩、デイサイトの火砕岩で構成される古浦層からなり、暖温帯の植物や動物の化石が産出されます。美保関北部には深い海の黒色泥岩、海底火山活動を示す流紋岩、安山岩の溶岩、火砕岩からなる1700~1500万年前の成相寺層があります。

## 美保関町のジオサイトマップ



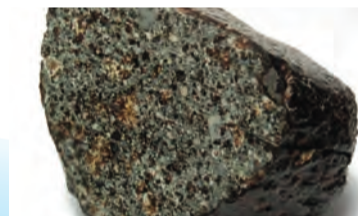
### 1 笠浦海岸のいろいろな火砕岩

約1400万年前頃の島根半島は火山活動が激しい海底であり、美保関には海底火山に関連した火砕岩類が露出している。笠浦半島では安山岩質凝灰角礫岩が見られるほか、北側には山体崩壊による径数メートルにも達する不定形の安山岩ブロックを大量に含む安山岩質火山角礫岩がある。この地点のごく近傍に噴出源の火口が存在していたものと考えられる。海岸付近には特定植物群落である「笠浦ハマビワ群落」がある。



### 2 美保関古浦ヶ鼻の鉱物

古浦ヶ鼻では、日本で最も鉄に富むバンベリー石、純度の高いぶどう石結晶の集合体、良質の結晶を示すバビントン石がみられる。これらはいずれも世界的にも貴重な鉱物資料ですが、も一つ所にこれらが集中しているところは他にはない。またバビントン石としては非常に美しい結晶で、日本では一、二を争う良い結晶といわれている。



### 3 美保関隕石

美保関隕石は、1992年12月10日21時頃、惣津の松本氏宅に落下したもので、大きさは約25×14×10cm、重量は6,380gで、現在は七類港にあるメテオミュージアムに所蔵・展示されている。国立科学博物館により専門的な研究が行われ、主にかんらん石、輝石などの珪酸塩鉱物からなる石質隕石であることがわかった。

### 4 千酌海岸の波食棚



### 4 千酌海岸の波食棚

潮位が低いときに洗濯岩(板)のような見事な波食棚が広がる。1500万年前頃の日本海の高気圧下に堆積した砂岩泥岩互層で、牛切層と呼ばれる。この泥岩層から深海生のイタガイの仲間の化石のほか、大型の深海生二枚貝の仲間やクジラの歯や骨の化石も産出している。「出雲国風土記」では、千酌浜は隠岐国への渡航の起点となっている。



### 7 惣津海岸と明島

惣津海岸には波食棚が広がっており、干潮時には淡水から汽水成の古浦層、そして深海底で堆積した成相時層の黒色泥岩の地層が広く観察できる。南側に分布する淡水から汽水成の地層は砂岩泥岩互層からなり、湖の斜面に発生した混濁流により形成されたとみられている。U字型を示す褶曲構造(背斜構造)も波食棚の中ほどにみられる。北側にある明島は粗粒玄武岩からなる貫入岩でできている。



### 5 入道礁

島根半島が壁となって弓ヶ浜半島沿岸の砂の流れを堰き止め、また中海側と美保湾側の海水交換のための水路として境水道を形成している。この地形は、基本的には断層によって形成されたもので、北国倒し(ほっこくたおし)とよばれた保久島(ほっこくじま)や入道礁(地域ではニイダグイとよばれる)は、断層で分断された岩体の一部である。保久島や入道礁は多くの船舶を座礁させた歴史がある。



### 9 法田海岸の波食棚

法田海岸の波食棚では大潮の干潮時に古浦層の凝灰質砂岩、泥岩、凝灰岩が、そして成相時層の黒色頁岩が観察できる。凝灰質砂岩からはシジミの化石のほか、巣穴などの生痕化石やカキの化石も産出し、汽水環境であったことを示す。黒色頁岩には、一部に地層が曲がりくねったスランブ構造が観察でき、深海性の底生有孔虫化石、稀に二枚貝化石や魚化石が産出する。大陸からの分離でできた日本海の初期環境を理解するうえで重要なサイトとみなされている。



### 8 宇井の古浦層

約2000万年前の大陸の時代に形成された古浦層下・中部の典型的な地層をみることが出来る。凝灰質泥岩や砂岩泥岩互層からなり、河川や浅い湖で堆積し形成されたと考えられている。平行葉理のある泥岩からは、メタセコイアや単子葉植物の葉化石その他の植物化石を産出する。採石場の跡地への立ち入りは禁止となっている。



### 6 権現山洞窟

中海と日本海を結ぶ境水道北側に位置する海食洞窟に残された縄文遺跡。流紋岩に幅8~9m、奥行3~4mの海食洞窟が開いている。出土遺物は、縄文土器(縄文時代後期)・石鏡・ヤス・貝類・獣骨などがある。「権現山洞窟住居跡」として国指定史跡となっている。



### 10 美保関の海食崖

軽尾から才地域にかけては、扇状地と三角州が一体化したファンデルタで形成された「大陸分裂の時代」の古浦層が分布している。国内最古級のワニや四趾性大型哺乳類の足跡化石が発見され、他にも様々な陸生・陸水生物化石や植物の化石が産出する。海食崖には石材(森山石あるいは海石)としてこれらの凝灰質砂岩・泥岩を砕石したタガネの痕がみられる。海岸沿いの岩上に、絶滅危惧種であるフナバラソウの生育が知られている。

### 13 地蔵崎

日本海形成以前の「大陸分裂の時代」の地層が露出している。1898年に世界の歴史的灯台100選の1つでもある美保関灯台が、周囲の森山石を主に使用して建てられた。海岸沿いの岩上に、絶滅危惧種であるフナバラソウの生育が知られている。

### 12 美保関の男神・女神

地蔵崎の南西側の美保湾に面した海岸沿いに分布する凝灰岩層の一部が崩落し、偶然に直立した状態で侵食された。大きく口を開けて威嚇した様に見える形態を示す。ライオン岩と呼ばれる形態のものもある。このように岩盤の表面が開いてきた楕円形の穴のことは、タフォニとよばれる。岩盤の表面で海水が蒸発する過程で、塩類の結晶が成長する際の圧力により、岩盤表面が破壊を受ける現象(塩類風化)により形成されたとみられる。

### 14 沖の御前

地蔵崎からは北東に約4km沖合にある岩礁で、灯台や鳥居が設置されている。日本海が拡大していくときの活発な海底火山活動に伴った流紋岩の貫入岩からなると推定されている。1200万年前に隆起して出来た。あひす様こと「事代主命」が鯛釣りをしていたとされる伝説の名所。ここから釣りをしながら船の安全を見守っているとも伝えられている。毎年5月5日には、沖の御前を舞台に「神迎え神事」が行われている。

### 11 沖の御前



### 11 青石畳通りと森山石

青石畳通りの石材は、松江市美保関町森山や日本海に面した島根半島北東部の雲津、軽尾、才地域の海岸などから採石された凝灰質砂岩で、森山石あるいは海石と呼ばれている。また江戸時代に福井県で採掘された笏谷石とよばれるデイサイト質火山礫凝灰岩も使われている。敷設されたのは文化年間から弘化年間(1804~1847年)の江戸時代後期とされる。この地は江戸時代中期以降北前船の西回り航路の寄港地として栄えた。